

1985年アヴォリアッツ国際ファンタスティック映画祭(批評家賞・主演女優賞)受賞

第1回東京国際映画祭ファンタスティック部門人気投票第1位◆全国学生ホラー映画研究会特選

1984年度米・ファンコリア誌(最優秀監督賞・読者投票第1位)受賞

Herald



エルム街の悪夢



監督・脚本 ウェス・クレイ
製作総指揮 スタン・ウー
「ザ・ランゲンカンフ・マインター」
「EX-TENSION」

目を覚ませナンシー！眠ると奴がやつて来る

それは悪夢の中より迫って来る！
全米を震え上がらせた
「新恐怖体験」
「これがナイトメア・ホラーだ！」
遂に日本全土急襲！

NIGHTMARE! ON ELM STREET



ホラーの最高傑作、遂に登場！ これがナイトメア・ムービーだ！

誰でも一度くらい悪夢を見たことがあるに違いない。目覚めた時の驚き。身体中に広がる冷汗。そして夢であったことの安堵感。しかし、その夢で見た出来事がもし現実起こったとしたら……。

'84年アメリカで公開されるや爆発的のヒットを飛ばし、'85年のアヴォリアッツ国際映画祭で大絶賛（批評家賞・主演女優賞）を博し、昨年の東京国際映画祭ファンタスティック部門で人気投票第一位に選ばれたホラーの最高傑作と評判の「エルム街の悪夢」が遂に公開される！ 1972年のデビュー以来、「デッドリー・プレッシング」「スワンプ・シング」など一貫してホラー映画を撮りつづけてきた「ホラーの鬼才」ウェス・クレイブンのこれは代表作である。

アメリカでは昨冬ハートIIが公開され、またまた大ヒット、すでにシリーズ化も決定している。

S・ライミ^(死霊のはらわた)もS・カニングム^(13日の金曜日)も撮影に参加した！

この映画の撮影日数は2ヶ月という短かいものだった。そのため連日撮影現場は徹夜に近いハードスケジュールが組まれた。そんな悪条件にもかかわらず、最高の出来ばえの作品が完成した裏には監督同志の熱い友情がある。「13日の金曜日」のショーン・S・カニングムと「死霊のはらわた」のサム・ライミの両監督が応援にかけつけ演出助手をかってでているのだ。S・カニングムはクレイヴン監督に映画界入りを最初に勧めた張本人として有名。またS・ライミの「死霊のはらわた」の1シーンがこの映画の中に登場しているのも話題のひとつ。

エルム街の悪夢

その時——ナンシーが見たものは 悪夢なのか！それとも現実なのか！

高校生のナンシーは毎夜悪夢に悩まされていた。鋼鉄の爪を持ったケロイド顔の男が迫ってくるのだ。しかしいつも危いところで目が覚めた。そんなある晩、親友のティナの家に招かれ、そこで彼女も同じ悪夢に苦しんでいることを知る。そしてその夜更け、信じられない光景を目撃した。全身血に染ったティナが何かの力で天井や壁を引きづり回されていたのだ。あの悪夢の仕業がも知れない。ナンシーは不吉なものを感じた。

その後も悪夢は続く。援業中、死体袋に入ったティナが廊下に見われナンシーを呼ぶ。彼女の後を追って地下室に降りると、突然あの殺人鬼が襲ってきた。悲鳴を上げて目覚めたナンシー。だが現実に戻った彼女の体には夢の中で負ったはずの傷が残っていた。

眠るたびに悪夢が襲ってくる。やがてナンシーばかりでなく、友達や恋人のニックまでもが危機にさらされはじめて、眠ることを恐れるようになったナンシーは、ある日、母親から驚くべき事実を告白された。「その男」は自分がこの手で殺した恐るべき殺人鬼フレディ・クルーガーではないかと——。

果してこれは夢なのか、それとも現実なのか……

ホラー史上最恐の男、 あの、フレディが日本を襲ってくるゾ！

ブギーマン（「ハロウィン」）、ジェイソン（「13日の金曜日」）を超えたと、アメリカの若者たちの間で人気No.1にのり上ったのが、この「エルム街の悪夢」のキャラクター、フレディ・クルーガー。右手に鋼鉄の爪を光らせ、黒い帽子の下には恐ろしい形相のマスク。フレディを演じているのはテレビなどでお馴染みのロバート・イングランド。フレディに変身するのに連日3時間のメイクが必要だったという。そのフレディのマスクが子供たちの間で流行したり、大学生が論文のテーマに掲げるなど、今やフレディ・ブームはアメリカ中を席卷する勢い。フレディはまもなく日本をも襲ってくる。



NIGHTMARE
ON ELM STREET

ウェス・クレイブン監督・脚本作品
カラー作品 / アメリカ映画 / アルシネ・テラン提供 / 日本ヘラルド映画配給 Herald

5月24日(土)よりロードショー	ニュー東宝シネマ1 (571) 1946	新宿オスカー (202) 0141	新宿武蔵野館 (354) 5670	渋谷パレス座 (461) 3534
	上野宝塚 (831) 2859	川崎グランド2 (045) (211) 6125	横浜東宝シネマ2 (045) (681) 7410	